

6-1 1/6時の指導計画

(1) 目 標

相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解することができる。

(2) 展 開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 文章は書き方によって相手を納得させる度合いが違うことを知り、意見文を書く学習に関心をもつ。 2 教科書の「立場と根拠を明確にして書こう」を読み、単元の目標を確かめる。 3 本時の目標を確かめる。	ワークシート① 学習計画表	◆「お願い作文」AとBを教材提示装置で投影し、どちらも納得できたかワークシート①に書かせる。 ◆学習計画表を教材提示装置で投影し、学習の見通しをもたせる。 ○本時の目標を斉読によって確認させる。	
相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを知ろう				
	4 「お願い作文」を比べ読みし、相手を納得させるためにはどのような工夫が必要かを考える。 [手順] 1) 気が付いたことについて学級で発言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・客観的な事実に基づくことが書かれているから。 ・体験に基づくことが書かれているから。 ・調べたことが書いてあるから。 </div> 2) ワークシート①の問いに取り組む。 個人 3) 考えたことをグループで確かめ合う。	ワークシート①	○「お願い作文」Aの方に、より納得すると感じる理由を考えさせる。 ○既習事項を確認し、共有させる。 ◆「お願い作文」を電子黒板で提示し、生徒の発言に該当する部分をマーキングをするなどして注目させる。 ○「双括弧」「反論」など単元の学習でキーワードとなる語句については、教科書で確認をさせる。	◇学習への取組が滞っている生徒には、教科書の該当箇所を指し示しながら、ワークシート①の「比べる視点・気が付いたこと」の内容を対照させ、文中の空欄に入る語句を考えるように促す。

展 開	<p>4) 「相手を納得させる文章」の条件についてグループで意見を出し合い、5つにまとめる。</p> <p>5) 学級で発表し合い、「相手を納得させる文章」の条件を5つにまとめる。 一斉</p>	画用紙	<p>○グループの話合いで5つにまとめたものを画用紙に書かせる。</p> <p>◆画用紙に書いた5つの条件を教材提示装置で投影させ、発表を分かりやすくさせる。</p> <p>○体験に基づくこと、本、新聞、雑誌、インターネットなどを利用して調べたこと、人に聞いたり、調査、観察、実験などを行ったりしたことなどを引用すると、意見を相手に納得させやすいことに気付かせる。</p>	
	<p>5 自分の意見を相手に伝えるための「意見文」とはどのような形態や展開の文章かを理解する。</p>	ワークシート①	<p>○「意見文」を識別させる問題に取り組みさせることで、意見文の形態や展開についての理解を確かにさせる。</p>	<p>【言①】 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p> <p>【ワークシート①】</p>
	<p>6 学習課題「立場と根拠を明確にして意見文を書こう」を設定する。</p>	<p>テーマ一覧 学習計画表 学習プリント「書くこと」④ 「目的や意図に応じて書く（意見文）」</p>	<p>○テーマ一覧から意見文を書くことを知らせ、根拠の収集について見通しをもたせる。</p> <p>○言語活動を通して身に付く力を予想させ、学習計画表の「単元で身に付けたい力」に書き込ませる。</p> <p>○学習プリントを活用して既習事項を確認し、単元の学習に備えるよう促す。</p>	<p>「相手を納得させる文章」の条件と文章を照らし合わせて、該当する部分にマーキングさせるなどしてみせて、判断の手掛かりとさせる。</p>

<p>まとめ</p>	<p>7 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。また、次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○目標に応じて学習内容がどうであったかを考えて振り返るように促す。 ○板書を参考にして学んだことを書かせる。 ○次時は、「中学生が使う辞書は『紙の辞書』がよいか『電子辞書』がよいか」をテーマに、意見文の書き方を学ぶことを知らせる。 	
------------	---	--------------	---	--